日本計量生物学会ニュースレター第 107 号

2011 年 11 月 30 日発行

～･～･～･～･～･ 目 次 ～･～･～･～･～･

① 巻頭言「想定外と想定内の狭間に」
② ホームページ移転のお知らせ
③ 東アジア国際計量生物会議 2012 の参加登録について
④ 第 26 回国際計量生物学会議 IBC2012 の一般演題受付開始
⑤ 2012 年度の年会に関するお知らせ
⑥ 2012 年度統計関連学会連合大会の速報
⑦ シリーズ: 計量生物学の未来に向けて
⑧ 日本計量生物学会 2011 年度理事会議事録
⑨ 第 26 回国際計量生物学会議 IBC2012 関連
⑩ 2011 年度統計関連学会連合大会報告
⑪ 2011 年第 2 回計量生物学講演会報告
⑫ 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い
⑬ 編集後記
付録 IBC2012 の第 2 報

～･～･～･～･～･～･～･～･～･～･～･～

① 巻頭言 「想定外と想定内の狭間に」

大瀧 慈(広島大学原爆放射線医科学研究所)

あの 3. 11 以来,「想定外」という表現を, いろいろな場面で見かけるようになった.「想定外」の状況に直面すると, 有効な対処法を迅速に立てられず後悔するような結果に至ることが多々ある. とりかえしのつかない事態にもなりうることを今回の原発事故が教えてくれた.

データ解析をする際, フォートラン言語を使ってプログラムを作成することがよくある. プログラムの作成過程は,「フローチャートの作成」に始まり, その後は,「コーディング」と「デバッグ」の繰り返しを経て次第に使えるものにしていくもの. 通常, 複雑な処理を行うプログラムを作り上げるには, 多大な労力と時間が必要となる. この過程で, 様々な「想定外」に出会い, その解決を迫られる. それも経験を積んでくると, 次第に「想定外」のことも「想定内」に取り込まれてくるようになり, 出来るだけ不測の間違いを避けられるようなノウハウも身につけるようになり作業効率も向上する. コンピュータというものは, 少なくとも現在使っているものは, 自分が指定したことを忠実に実行しようとするもので, 不合理な処理や単純な間違いが含まれていてもお構いなしである. その愚直さがコンピュータのコンピュータたる所以であり, 逆説的な観点からその処理結果に普遍的価値が与えられるのであろう. であるから, コンピュータには, その愚直さを失ってほしくはない. 不完全性や整合性のないフローチャートやスペルミスを自動的に修正してくれるようなコンピュータ(より正確には, コンパイラ)があれば, それはそれで便利で重宝するかもしれないが, ブラックボックス化されたそのようなシステムは怖くて使えない. そのリスクを避けるとすれば, デバッグ処理をする際, いろいろな可能性を考えて対処せざるをえなくなる. 私も, これまでプログラム作成処理を通じていかに自分は詰めが甘いか, いかに不注意な人間であるか, 何度も思い知らされた. その経験から,「学生に自分の考えの中途半端さを思い知らせるには, プログラミングを！」と思うようになった. 歳をとるにつれていろいろな経験を積み用心深くなってきた. 想定外であったものが少しずつ想定内になってきた結果かも, そういえば若いときは多くの無鉄砲なことをしたように思う.「想定外」は対象が未知のものである場合に起こりやすい, 対象に関して無知である場合にも同様であるがその場合は自覚に乏しいためにさらに起こりやすい. 後者の場合, 勉強さえしておけば予防できた可能性のある「想定外」となる. 俗に言う若気の至りは無知なるがゆえの特権で若者には許されるものかもしれないが, 大人がそれをすると恥ずかしい.

年に数回は東京へ出張する. そのほとんどの機会, 宿は上野のあるホテルにしている.「何故, 上野なのか」というと, 上野であれば, 東京駅に近いし何かにつけてお財布に優しい, それに何と言っても, 地震や津波が起こった場合に, とりあえず上野のお山に避難すればよい！新宿や池袋のような所だと, 私のような田舎者にとっては有事の際どっちへ逃げればいいのか路頭に迷ってしまう. もっと東京のことを勉強するべきなのかもしれないけど, 自分にとって東京はあまりにも大きくて煩雑で広いため, 検討の対象に出来ていない. 私にとっての東京出張の際の宿に関する「想定内」の限界はそこらあたりにある.

いま, 日本だけでなく世界中で,「脱原発か否か」が検討されている. 原発システムの最大の問題は, 失敗が許されていないことにあるのではなかろうか. 今回の福島原発事故のように対策に不備があると, とてつもなく大きな損害を被ることになる. 事故の原因が「想定外」であったなどという言い訳は, 本来許されるべきではないであろう. 失敗は許されないことが事前に分かっているから「安全です！」という表現が繰り返されたのであり, 事故は起こらないことになっていた, そのため意図的に「想定外」にされた可能性があると疑われる. 本当に, 安心できるシステムを作ろうとするのであれば, 多くの失敗の積み重ねができ, 試行錯誤の許された過程を経るべきである. いつも優等生で叱られることもなく成人してしまった「子供」は危ない. 大した根拠もなく「絶対安全です！」とか「事故は起こりません！」という表現がついて回っているシステムほど要注意である. 研究は高級な遊びの一種という解釈もあり, 倫理的な問題などで余程のことが無い限り制約されるべきでないとは思われるが, あらゆる想定の下で失敗が許される程度の節度は保つべきものと思う. 原発システムも研究という側面はあるかもしれないが, 例外ではないはずである. 少し考えてみたら, 人生にはいたるところに「想定外」が鏤められている. もし, そうでなく「想定内」の連続であれば退屈極まりなく, ろくなものになりそうもない. 適当に「想定内」と「想定外」が絡み合っているのがいいのかもしれない. 研究生活もそうあればいいなと思っている.

② ホームページ移転のお知らせ

日本計量生物学会事務局

サーバ移転にともない, 日本計量生物学会のホームページアドレスを変更しました. 新しいアドレスは,

http://www. biometrics. gr. jp/です.

(旧アドレス: http://wwwsoc. nii. ac. jp/jbs/)

お手数ですが, リンクやブックマークの変更をお願い致します.

③ 東アジア国際計量生物会議 2012 の参加登録について

大橋靖雄, 和泉志津恵（EAR-BC2012 プログラム委員会）

会報 106 号にて第 1 報をお知らせしましたように, 国際

計量生物学会 東アジア各支部（インド，韓国，中国，日本）における計量生物学の振興と親睦を図るために，第３回東アジア国際計量生物会議 （3rd East Asia Regional Biometric Conference 2012）が，下記のように開催されます．今回の会議のテーマは「Biometric Applications in East Asia」となり，Invited session では東アジア各支部からの招待講演者を招き，一般講演およびポスター発表を予定しております．詳細は，下記の会議の HP をご参照下さい．

参加費の割引を伴う早期参加登録は，12 月 31 日まで電子メールにて受け付けられます．IBC2012 のプレカンファレンスとして，また，計量生物学のさらなる発展のために，趣旨をご理解の上，積極的な参加をお願い申し上げます．

記

East Asia Regional Biometric Conference 2012（EAR-BC 2012 Seoul, Korea; http://earbc2012. snu. ac. kr）
開催日時: 2012 年 2 月 2 日（木），3 日（金）
開催場所: 韓国・ソウル大学 Hoam Convention Center
(http://www. hoam. ac. kr/english)
Email : earbc2012@gmail. com
プログラムの概要：
2 月 2 日（木）
9:00 受付開始
9:30 開会式
11:00 招待講演
「New Challenges to Statistics in Clinical Trials: Biosimilar and rare diseases」
12:00 昼食
13:30 招待セッション
「Recent research topics in the nested case-control studies」
14:30 招待セッション
「Robust inference with its application in public health」
15:30 休憩
16:00 招待セッション
「Recent Topics in Biomedical Researches」
17:00 一般セッション
18:00 夕食会

2 月 3 日（金）
9:00 受付開始
9:30 招待セッション
「Design and analysis of clinical trials」
10:30 休憩
11:00 招待セッション
12:00 昼食
13:30 一般セッション
14:30 招待講演
「Improving Statistics Powers in Genome-wide Association Studies」
15:30 閉会の辞

④ 第 26 回国際計量生物学会議 IBC2012 の一般演題受付開始

大橋靖雄，松山 裕（IBC2012 プログラム委員会）

第 26 回国際計量生物学会議 IBC2012 の一般講演およびポスター発表の受付を開始しました．Invited session では世界の Biostatistics の研究者・実務家の招待講演者をお招きし，Short Course や市民講演会なども予定しております．計量生物学のさらなる発展のために，趣旨をご理解の上，皆様の積極的な参加をお願いします．プログラム等の詳細は，下記の IBC2012 の WEB ページをご参照下さい．

記

開催日時: 2012 年 8 月 26 日（日）～31 日（金）
開催場所: 神戸国際会議場
一般演題: (受付期間) 2011 年 11 月 10 日～2012 年 1 月 15 日
WEB ページ:http://secretariat. ne. jp/ibc2012/

⑤ 2012年度の年会に関するお知らせ

和泉志津恵，高橋邦彦，手良向 聡，服部 聡（企画担当理事）

2012 年度の日本計量生物学会年会は，2012 年 5 月 25 日（金）午後より 26 日（土）夕方まで，統計数理研究所（東京都立川，http://www. ism. ac. jp/）にて開催されます．5 月 24 日（木）に応用統計学会年会が，翌 25 日(金)の午前に日本計量生物学会と応用統計学会の合同のチュートリアルセミナーが，同会場にて開催される予定です．

年会では，水産資源に関する特別セッション，2011 年度学会賞を受賞された大橋靖雄氏による特別講演，ならびに研究発表，総会が予定されています．一般講演セッションは，今年と同様に，以下にある分野毎の演題募集を行います．

A. 臨床試験・臨床研究，B. 臨床診断学，C. 疫学，
D. ゲノム・バイオインフォマティクス，E. 資源・環境・農業，
F. その他

8 月 26 日～31 日に神戸にて開催される IBC2012 へ参加される前に，こちらの国内大会においても会員の皆様の積極的ご発表ならびにご参加をお待ちしております．

⑥ 2012 年度統計関連学会連合大会の速報

手良向 聡（連合大会プログラム委員会）

期日:2012 年 9 月 9 日（日）～12 日（水）
場所:チュートリアルと市民講演会:かでる 27（札幌市内）
大会:北海道大学（札幌キャンパス）

⑦ シリーズ: 計量生物学の未来に向けて

数理統計学者が計量生物学に貢献するために

二宮嘉行（九州大学）

「なんでお前が」と本記事を読む方から言われる気がかなりするわけですが，計量生物学の未来に向けた想いを書くことになりました．一方，「私は数理統計学者でして」と言うと，今度は本格的な数理統計学者からクレームがつく気もするわけですが，計量生物学会員の中で私がそちら寄りであることは間違いないと思います．そこで，私と同年代以下の数理統計学者全体が，今後どう計量生物学に関わり，どう貢献していくべきか，ということを考えてみたいと思います．

この議題に対し，一つの答えのヒントとなるものが，三年前に滞在させてもらったスタンフォード大学統計学科にある気がします．そこでは，週に一回，通常の統計セミナーとは別に生物統計セミナーが開催されていました．学内外の生物統計関連研究者が一時間ちょっと講演し，その後かなり長めのディスカッションが行われていました．スタンフォード大学統計学科

において数理統計学を専門分野の一つとしている教授陣は，これまで計量生物学に大きく貢献するような理論・応用研究をグループとなって行っていますが（ちなみに，教授陣のうち半数近くが計量生物学に貢献する研究を行っています），その下地がこのセミナーにあるのではないかと思いました．そこは最高峰の統計学科の一つでしょうから，行われている研究が理想的に見えるのは当然のことかもしれませんが，模範としてみた方がいいかもしれないと思った点を二つだけ書いてみます．

一点目は，応用上即戦力となるような理論の構築を目指している割合が高いことです．例えば，LASSO関連手法やFDRはゲノム解析などで今や欠かせぬものですが，スタンフォード関連研究者の理論の構築が大きな礎になっています．長期的な視点で見て理論の基礎固めをおこなうことはもちろん非常に重要なことですし，多様な研究がなされるべきであることは真理です．また，日本の若手・中堅の数理統計学者の研究には，即戦力となるものがたくさんあることは事実です．一方で，私の研究も含め，その割合がもう少し高い方がいいかもしれないと感じました．

二点目は，そのような理論が複数の数理統計学者のグループによって作られていることです．理論志向の強い研究者と応用志向の強い研究者がペアになってなされた研究というのはよく見ますし，同じバックグラウンドをもつ理論系研究者間の研究というのもよく見ます．そこでは，それだけでなく，バックグラウンドの異なる理論系研究者が目的を共有して作り上げた研究というのも多い気がします．スター揃いと言われるその学科でもグループで研究が行われています．もちろん日本でもそういったグループは存在しますが，海外の研究に負けないものを作るためには，目的を共有して数理統計学者どうしでもグループを作る，ということがこれまで以上に必要かもしれません．

若手・中堅の数理統計学者が計量生物学において即戦力となるような理論を作るためには，計量生物学者や各分野で統計を用いる方々と今まで以上に交流する必要があると思います．またもスタンフォードの話ですが，学習理論で著名な方が「たくさんの統計相談を受けているが，ほとんどのケースでシンプルな手法を勧めているので，研究に繋がるのは稀」と言っていました．正確には，半分しか英語を聞き取れないので，半分は脳で補完してそう解釈しました．また，私を受け入れてくれたのは確率論の研究者といってもよい方なのですが，他分野の研究者との統計に関する議論を定期的に行っており，それを楽しそうに話してくれました．当然のことかもしれませんが，数理的な才能のある統計学者でも交流と経験は必需である，ということを意味していると思います．

逆に，計量生物学者や各分野で統計を用いる方々には，まだあまり応用研究をしていない若手数理統計学者にも興味をもってもらいたいと思います．「あの人たちは，応用分野への貢献に興味がなく，即戦力として使えない」と思っているかもしれません．ちなみに，私の共同研究者もそうだったらしいです．しかし，例えば純粋数学ではなく統計学を専門分野として選んでいる時点で，興味がないはずはありません．私は院生のとき「応用分野に直接的に貢献できるようになるためには経験が必要だろうから，今は理論の基礎固めをしよう」と思っていました．そのような若手は多いのではないでしょうか．機会があれば喜んで応用分野の勉強をする，という若手はたくさんいると思います．実際に私はそうだったわけでして，最近は前述の共同研究者も「意外と使える」と言ってくれるようになり，それをニヤリと聞いています．ちなみに，応用的センスを秘めている若手数理統計学者は多いと思います．数理統計学寄りから計量生物学寄りの研究活動をするようになり，それまで以上に光り輝いてみえるようになった若手を，私は何人も挙げることができます．

私が今思いつく理想をまとめてみます．それは，「若手・中堅の数理統計学者がグループとなり，より積極的に各分野の方々と交流し，そこで挙がる問題をまさに束になって解決して計量生物学で即戦力となるような理論を築く」という状況が頻繁に起こることです．そして，それに向け，まずは自分が努力するしだいです．なんだかとても偉そうに書いてしまいました．この原稿が印刷されると思うとおぞましいことこの上ないですが，求められている記事の性質上しょうがないと諦め，このまま寄稿させていただきます．

⑧ 日本計量生物学会 2011 年度理事会議事録

大橋靖雄，浜田知久馬（庶務担当理事）

○2011 年第 4 回対面理事会議事録

日時： 2011 年 9 月 6 日（火）12:00～13:00
会場： 九州大学 伊都キャンパス
センター2 号館 2 階 2202 室
出席： 佐藤，和泉，上坂，大橋，大森，高橋，椿，
手良向，丹後，服部，浜田，松井，松山，
山岡（監事）
欠席： 厳，三中，森田，三輪（監事）
[委任状 3 通]

議事：

1. 庶務担当理事からの報告

庶務担当，浜田理事から現在の会員数・入退会状況が報告された．

学会 HP のサーバー移転に伴うドメイン名変更についての経緯説明と，業者を通じて申請手続きを行い，ドメイン登録が完了したとの報告があった．また提案されたレンタルサーバーについて了承された．

IBS ドイツ支部から，支部の Bulletin で日本支部の活動状況を紹介したいとの申し出があり，日本計量生物学会及び IBC2012 の紹介記事を作成し，依頼することになった．

2. 会報担当理事からの報告

会報担当，和泉理事からニュースレター107 号の発行スケジュールと目次が報告された．また記事の会議名統一などの注意点が確認された．

3. 編集担当理事からの報告

編集委員長，松井理事から「計量生物学」の発行と現在の投稿状況が報告された．また電子ジャーナル化（J-Stage）の進行状況が報告された．公開済みは 31 巻 1 号と 30 巻 1 号，プレ公開済みは 32 巻特別号，31 巻 2 号，30 巻 2 号，バックナンバーについても，年内に公開見込みであることが報告された．

4. 企画担当理事からの報告

企画担当，和泉理事より報告がなされた．

1) 2011 年度の日本計量生物学会年会およびチュートリアルの会計報告がなされた．
2) 2011 年度の統計関連学会連合大会の企画セッションの実施状況が報告された．
3) 2011 年計量生物セミナー予定
日時：2011 年 11 月 25 日（金）午後，11 月 26 日（土）
会場：キャンパスプラザ京都 （京都大学と共催）
テーマ：中間解析（25 日）・適応型デザイン（26 日）
で実施することが報告された．
4) 2012 年度日本計量生物学会年会およびチュートリアル予定
日時：2012 年 5 月 24 日（木），25 日（金），26 日(土)
（応用統計学会と共同開催で，日本計量生物学会は 25 日

(金)の午後から)
場所:統計数理研究所
特別講演:大橋靖雄氏.　座長:佐藤俊哉氏
特別セッション:水産関係
で検討していることが報告された.
5) 2012 年度統計関連学会連合大会予定
企画 1　奨励賞受賞者講演
企画 2　日本計量生物学会シンポジウム
「放射線の健康影響に対する生物統計家の取り組み
ーこれまでの成果と新たなる展開ー(仮)」
で検討していることが報告された.
原発職員コホートの調査結果についても報告すべきとの意見があった.
6) 2012 年計量生物セミナー
「IBC2012」の開催年にあたるため, 開催しない方向であることが報告された.

5. 会計担当理事からの報告

会計担当, 大森理事より報告がなされた.

途上国援助金について, IBC2012 への途上国からの参加者を増やすために, 増額を検討した結果が報告された.

LOC 丹後組織委員長, 厳財務委員長の依頼に基づき, IBC2012 の準備のため, 3, 000, 000 円を LOC に貸し付けることが提案され了承された. 貸付期間は 2011/10/1 から 2012/9/30 の1年間(無利子)である.

学生会員を増やすために, 新規の学生会員は会費を 1 年間免除することが提案され, 会則上に問題がなければ実施することになった.
本部への送金や途上国援助の予算の算出について, 円相場を反映して見直しを検討することになった.

⑨ 第 26 回国際計量生物学会議 IBC2012 関連

○IBC2012 に積極的参加を!

丹後俊郎(IBC2012 組織委員長)

来年 8 月末に, いよいよ IBC2012 が神戸で開催となる. 今回の Online Submission は IBS 本部のシステムを利用することになり, その打ち合わせ等で 1 ヶ月近く遅れて 11 月 10 日の受付開始となってしまった. 一般演題の受付期間は 2012 年 1 月 15 日までなので, 国内会員の皆様や興味をお持ちの方々の積極的な参加を期待したい. また, IBC2012 への早期割引の事前登録は 2012 年 1 月 4 日開始を予定しているので, 会員となっていない関係者の方々もこの機会にぜひともご参加いただき, 世界の Biostatistics の最先端の研究者らとの相互交流を深めていただければ幸いである.

○第3回組織委員会議事録

丹後俊郎・山岡和枝(組織委員会)

日時:9 月 5 日(月) 12:00～13:00
場所:九州大学伊都キャンパス　センター2号館2階 2202 室
出席:浜田知久馬, 厳　浩, 岩崎　学, 大橋靖雄, 松山　裕, 南美穂子, 三輪哲久, 大森　崇, 佐藤俊哉, 丹後俊郎, 上坂浩之, 山岡和枝
(オブザーバー:北村直子・山田詩恵(リンケージ))
欠席:岸野洋久, 椿　広計, 森川敏彦

議事:

1. 丹後俊郎組織委員長より, Executive Director Dee Ann Walker IBS 事務局長との打ち合わせについて, まず Abstract に関する演題登録システムについてこれを利用すること, その利用料金は$7000 であることが確認された. 今後は IBS 本部のシステム担当の Abaggett 氏と大橋靖雄プログラム委員長が連絡をとって進めていくことになった. 次に IBS 本部では 9 月半ばくらいから広報活動も行うので, 特に WEB での宿泊やツアー関係の情報を早く出してほしいと依頼があったことが報告され, これに関しては佐藤俊哉総務委員長が順次 WEB に更新していく手配をしていることが確認された. さらに, 第 2 回組織委員会の IBS 本部への報告として Minutes of The 2nd Face-to-Face IBC2012 LOC Meeting を Organizing President Kaye Basford IBS 会長らに提出したこと, オタワの ISCB2011 での宣伝活動について報告があった.
2. 運営委員会からは, 山岡庶務委員より WEB 更新の現状, 2011 年度第 4 回 NL 原稿(11 月締め切りの予定)までに the second announcement の作成をすること, これに関しては丹後組織委員長と案を作成しリンケージに作成してもらい, LOC メール委員会で確認後, NL 原稿として送付する予定であることが報告された.
3. プログラム委員会からは, 大橋靖雄プログラム委員長から Invited Session(IS)の最終選択結果は 9 月 5 日に報告とのことであったが, まだ連絡が来ておらず, それが着次第 LOC 委員会に連絡するとの報告, Contributed Paper の査読方針などの現状報告があった. abstracts の分類に関しては, 現在案を Christine IPC 委員長と Kaye 会長に送付し検討中であること, 口頭発表とポスター発表については会場でのポスターの掲載可能数に併せて, 半日交替, 1 日交替, 前半・後半などの運営を行うことになった. Biometric Showcase と JABES Showcase については大橋委員長から IPC 委員長に内容や具体的作業などについて問い合わせて対応することになった. セッション開始時間は三宮市内などからの参加者の便宜も考え, 9:00 から開始するようにすることが確認された. サテライトミーティングについては現在検討中であるが, 統計関連学会連合大会の開催は IBC2012 とは少し期間が開くので, これは念頭に入れないことになった. IBC2012 開催に当たり支援を受ける神戸市長は Welcome Reception に招待すること, オープニングセッションに招待する範囲について IBS 本部等に連絡をとり確認することになった.
4. 財務委員会からは, 厳浩財務委員長から進行状況について報告があった. まず, リンケージとの受託契約に関しては, リンケージの慣例に倣い, 特に契約書は交わさず議事録をもって代替とする方針であることが報告され承認された. 日本計量生物学会から IBC2012 への運転資金として 300 万円借り受けることを 6 日の理事会に申し入れること, 収支管理などの募金活動, 会計管理の方針等について報告された. 寄付金募集のための趣意書は 1 ページ程度の簡単なものとし, 日本計量生物学会のパンフレットとともに企業に送付するとの報告があった. 寄付金については税制上の控除の必要の有無により IBC2012 事務局の銀行口座に直接あるいは財団経由で振り込みを受ける方針が承認された. 学術会議関係は山岡庶務委員が, 神戸市関係の財団寄付については厳財務委員長が担当として手続きを進めることになった. プログラムへの広告, 展示, 企業展示などについて 3 委員長が相談し依頼を進めていくことになった.
5. 総務委員会からは, 佐藤俊哉総務委員長より, 現在の進行状況について報告があった. エクスカーションでは奈良観光, うず潮ツアー, 六甲山のハイキングツアーも選択肢に加えること, 有馬温泉, 広島ツアーなどの案内も出すことなども検討することになった. 宿泊プランに関しては, 学会割引のホテルがポートピアホテル, クオリティホテル神戸, ホテルパースシティ神戸の 3 カ所であり割引率の交渉をさらに行っていること,

その他のホテル情報などについて，および空港からのアクセスについても MK タクシーの英文サイトへのリンクの許可をもらったことなどが報告された．
6．市民公開講座については，三輪哲久委員長より進行状況について報告があり，プログラム案が提案された．さらに農業環境技術研究所の後援としてプログラムに加えたいとの提案があり，承認された．

⑩ 2011 年度統計関連学会連合大会報告

和泉志津恵，高橋邦彦，手良向 聡，服部 聡
（企画担当理事）

2011 年度統計関連学会連合大会は，9 月 4 日～7 日に福岡市で開催されました．4 日はアクロス福岡において 2 つのチュートリアルと市民講演会，5 日～7 日には九州大学伊都キャンパスにおいて企画・一般セッションが開催されました．初日に行われた日本計量生物学会による 2 つの企画セッション「非劣性試験における統計学的課題」，「日本計量生物学会奨励賞受賞者講演」には多くの方に参加いただきました．

○日本計量生物学会シンポジウム「非劣性試験における統計学的課題」

非劣性試験の方法はすでに実際の臨床試験で広く用いられており，しばしば医薬品開発において重要な役割を果たしています．非劣性マージンの選択をどのようにするかがしばしば問題とされますが，アッセイセンシティビティを如何に示すか，解析対象集団を如何に定義するかなど様々な本質的な問題点が残されています．本シンポジウムでは，難問が山積のこの分野を少しでも発展させるべく企画されました．

安藤氏（医薬品医療機器総合機構）からは，FDA ガイダンスやこれまでの審査の経験などをふまえた包括的なレビューがなされました．田中氏（京都大学）からは，非劣性試験の報告に関するシステマティックレビューの結果が報告されました．後知恵的に非劣性試験による証明を適用したと思われる報告も実際にはなされており，適切な報告の重要性が強調されました．浅川氏からは，ロシュ社で実施された非劣性試験のデザインの詳細を，そこで用いられた非劣性マージンの選択法の理論的背景まで含めて紹介されました．比較的新しい方法を実際問題に取り入れた例であり，国内で実施される臨床試験でも積極的に新しい方法論が導入されることが望まれるように感じられました．飛田氏（医薬品医療機器総合機構）からは，アッセイセンシティビティを統計的に適切に評価した上で，非劣性を評価する新しい方法論についての解説がなされました．

講演は医薬品の許認可の経験に関わるものから，方法論の開発に関するものまで，産官学のそれぞれの立場からの幅広い内容をカバーするものであり，たいへん興味深いものでした．本シンポジウム会場には，実際の医薬品開発にかかわる方をはじめとする多くの方にご参加いただき，またフロアからも活発な質疑が出され，この問題の関心度の高さがうかがえました．シンポジウムを通じて，この分野には解決が望まれる問題が多く残されていることが再認識されたように思われます．今後ますますの発展が期待されます．

安藤氏

田中氏

浅川氏

飛田氏

○「2011 年度日本計量生物学会奨励賞受賞者講演」

2011 年度の日本計量生物学会奨励賞を受賞された竹内文乃氏（東京大学），田栗正隆氏（横浜市立大学）より，それぞれの受賞対象論文に関する講演が行われました．竹内氏からは疫学研究における複数のバイアスの影響を確率的感度解析によって評価する方法と適応事例が紹介されました．また，田栗氏は食物摂取量データに内在する測定誤差の影響を考慮した階層的回帰モデルを紹介されました．これらの講演に対して誤分類あるいは真値の定義などについて議論がなされました．両論文とも，現場の問題を解決するというデータ解析の立場から理論的発展が期待できる研究テーマと思います．受賞者の方々の今後のご活躍を期待いたします．

竹内氏

田栗氏

⑪ 2011 年第 2 回計量生物学講演会報告

上坂浩之(大阪大学)

本講演会は，大阪大学医学系研究科医学統計学における集中講義の講師として濱崎俊光准教授の招きで Novaritis Pharma の Frank Bretz 博士が来阪されたのを機に，京都大学医療統計，大阪大学医学統計学および日本計量生物学会の共催として開催された．講師を招待された濱崎准教授に感謝いたします．

臨床試験では複数の評価変数に関して複数の試験治療を比較する状況によく遭遇する．このような状況において，複数の主要な仮説と複数の副次的な仮説を設定し，これらの仮説全体の族に構造を与えた上で，多重性を考慮した検定法として Gatekeeping procedure が開発された．この方式は大変有用で強力な方式であるが，統計家以外の臨床試験関係者にとっては理解が難しい．そのため，臨床試験関係者が理解しやすいことと，gatekeeping procedure と同様の問題に適用しうる方法として，Bretz 博士らによってグラフを用いた検定方式が提案された．本講演では，この検定手順の考え方と方法が紹介された．本方式では，仮説構造，有意水準の各仮説への分配，および検定手順が，仮説間の矢印とそこに示された有意水準の分配割合によって視覚的に示される．例を用いてこの方法がわかりやすく解説された．本方式では上位の仮説群と下位の仮説群の間の独立性条件を課さないことにより，gatekeeping procedure より，上位仮説に関する検定がより強力になりえることが例示された．例示における仮説の構造化の

方法と，独立性条件を課さないことについて質問と議論がなされた．

講演に関する詳しい紹介は Bretz, F.， Maurer， W.， Brannath， W. and Posch， M. A graphical approach to sequentially rejective multiple test procedures. Statistics in Medicine 2009; 28: 586-604. および Bretz， F.， Maurer， W. and Hommel， G. Test and power considerations for multiple endpoint analyses using sequentially rejective graphical procedures . Statistics in Medicine 2011;30:1489-1501 を参照されたい．

2011 年第 2 回日本計量生物学会講演会講演中の Bretz 氏

⑫ 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い

松井茂之，三中信宏（編集担当理事）

本学会雑誌である「計量生物学」に会員からの積極的な投稿を期待しています．会員のためになる，会員相互間の研究交流をより一層促進するための雑誌をめざすため，以下の 5 種類の投稿原稿が設けてあります．

1. 原著（Original Article）

計量生物学分野における諸問題を扱う上で創意工夫をこらし，理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの．

2. 総説（Review）

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し，その現状，将来への課題，展望についてまとめたもの．

3. 研究速報（Preliminary Report）

原著ほどまとまっていないがノートとして書き留め，新機軸の潜在的な可能性を宣言するもの．

4. コンサルタント・フォーラム（Consultant's Forum）

会員が現実に直面している具体的問題の解決法などに関する質問．編集委員会はこれを受けて，適切な回答例を提示，または討論を行う．なお，質問者（著者）名は掲載時には匿名も可とする．

5. 読者の声（Letter to the Editor）

雑誌に掲載された記事などに関する質問，反論，意見．

論文投稿となると，「オリジナリティーが要求される」，「日常業務での統計ユーザーにとっては敷居が高い」などを理由に二の足を踏む会員が多いかもしれませんが，上記の「研究速報」，「コンサルタント・フォーラム」は，そのような会員のために設けられた場であり，活発に利用されることを特に期待しています．いずれの投稿論文も和文・英文のどちらでも構いません．

2004年度から学会に3つの賞が設けられ，その一つである奨励賞は，「日本計量生物学会誌，Biometrics，JABESに掲載された論文の著者（単著でなくても第1著者かそれに準ずる者）で原則として40歳未満の本学会の正会員または学生会員を対象に，毎年1名以上に与えられる賞」です． 最近は，履歴書の賞罰欄に「なし」と書くと公募の際に引け目を感じるくらいです． ここ数年，「計量生物学」に掲載された論文が受賞しており，今後もこの傾向は続くものと見込まれます．特に，上記の条件を満たす方は，ご自身の研究成果の投稿先として「計量生物学」を積極的に検討されてはいかがでしょうか．

また，特に最近の計量生物学の研究に関しては，英語の総説はあっても，日本語で書かれたよい総説・解説が存在しない分野やテーマが多く見受けられます．日本語での総説論文は，多くの会員に有益な情報を提供すると同時に大変貴重なものになりますので，その投稿は大いに歓迎されます．

なお，論文の投稿に際しては，論文の種類を問わず，雑誌「計量生物学」に記載されている投稿規程をご参照ください．会員諸氏の意欲的な論文投稿を心よりお待ちしております．

⑬ 編集後記

来月には師走を迎え，2011 年が締めくくられる．この 1 年を振り返えると，3 月に発生した震災関連のニュースが記憶の大半を占める．本学会の会員名簿によると，少数の会員が被災されたようだった．私を含めて残りの会員の多くが，震災と何らかの関わりがあったのではないかと推測される．震災から 8 ヶ月の間で，徐々に生活面が改善されつつあるが，復興への支援はこれからも時間をかけて必要であろう．

この震災の影響は学術界にも広がった．幾つかの学会では，国内での大会を延期や中止にしたようだ．会場や開催時期を変更して開催された大会もあった．震災後約 3 ヶ月であったが，幸いにも，本学会の年会は予定通りに開催することが出来た．これはひとえに，大会関係者と会員のみなさまのご協力とご尽力の賜であったと思う．

福島の原子力発電所の事故後の放射線影響調査では，本学会の会員が幾つかの分野において携わっている．研究デザインの提案，データ収集法の検討，データ解析方法の開発などの数多く場面において，計量生物学者が活躍できる状況にある．今年度の連合大会では，「大震災の科学的評価と人間行動」についてのセッションが統計学会連合により企画された．ここでは，原子力発電所の事故後の調査などの貴重な講演を拝聴できた．このセッションに関連して，2012 年度連合大会での日本計量生物学会シンポジウムを企画中である．シンポジウムでは，放射線の健康影響調査において講演者がこれまでに培った経験や知見をご紹介いただき，震災後の復興において計量生物学者が何をどのように貢献できるのかを議論できればと，希望している．原子力発電所の事故による環境や生態系への影響を調査する研究では，計量生物学者のこれまで以上の活躍が望まれるだろう．このシンポジウムを契機に，復興に向けた力強いメッセージを会員の皆様と一緒に社会へ発信していきたいと考える．

これから迎える 2012 年は，本学会にとって，華やかな年になりそうである．2 月には EAR-BC2012，5 月には年会，8 月には IBC2012，9 月には連合大会でのシンポジウムなどが開催予定である．国際計量生物学会の東アジアにおける支部間の交流が，EAR-BC や IBC においてさらに発展することを願う．最後に，会員のおひとりおひとりに，来年はさらに幸せな出来事が起こりますように，お祈り申し上げます．

（九州の由布岳より）

計量生物学会ニュースレター107 号
2011 年 11 月 30 日発行
発行者 日本計量生物学会
発行責任者 佐藤俊哉
編集者 和泉志津恵，上坂浩之

XXVIth International Biometric Conference

Organised by the Biometric Society of Japan,Japanese Region of the International Biometric Society

August 26-31,2012

Kobe International Conference Center Kobe,Japan

Invitation

We are pleased to welcome you to Kobe for the XXVIth IBC in Kobe, Japan. As always, It will bring together participants from all over the world working and/or studying in academic institutions, government agencies, and industry to exchange ideas on the latest advances in biometry, biostatistics and bioinformatics. It will also be an occasion to meet old and new friends, and the chance to visit historical cities such as Kobe, Kyoto, and Nara.
(Toshiro Tango, Chair Local Organizing Committee)

About Kobe

Kobe, located almost in the center of Japan, is known as a city having a unique style with the exotic atmosphere in Japan, which has been affected by the foreign cultures and flourished as the international port since old days. Kobe boasts the Rokko Mountains richly endowed with nature and has flourished as the hot spring street such as Arima since old days. Kobe is also known as the gourmet street (Kobe beef, Nada Japanese sake, wine and sweets), as well as the fashion street with the sophisticated image.

About Conference Venue

IBC 2012 will be held at the Kobe International Conference Center(KICC) within the Kobe Convention Center Complex, located on Port Island, an artificial island in Kobe. It features a combination of extensive conference facilities, modern and affordable accommodations, and a rapid and efficient transportation system.

Access to KOBE

Closest International Airport

Kansai International Airport (KIX)

Bay Shuttle + Port Liner	40min
Limousine Bus + Port Liner	80min
Shuttle Taxi	80min

Access Via Other Japanese Airports

Tokyo (Narita International Airport) (NRT)

NEX & Shinkansen 60min & 2hr 48min

Conference Organization

Organizing President
Kaye E. Basford, University of Queensland, Australia

International Programme Committee Chair
Christine McLaren, University of California, USA

Local Organizing Committee Chair
Toshiro Tango, Center for Medical Statistics, Japan

Scientific Programme

- Opening ceremony and IBS Presidential address
- Full programme of invited oral sessions
- Contributed oral and poster sessions
- Sessions highlighting the society's publications Biometrics and JABES
- Pre-conference short courses
- Young Statisticians Showcase

Social Programmes

Sunday 26	Welcome gathering at KICC
Wednesday 29	Range of social excursions (one-day)
Thursday 30	Conference dinner

Important Dates

Submission and Registration

5th September 2011
Final selection of invited sessions

15th October 2011
Call for submission of contributed papers opens

4th January 2012
Early Bird Registration opens

15th January 2012
Deadline for submission of contributed papers

31th March 2012
Notification of acceptance and allocation (oral or poster)

30th April 2012
Deadline for Early Bird Registration

31th July 2012
Deadline for non-Early Bird Registration

For constantly updated information, please see the website
http://www.secretariat.ne.jp/ibc2012/

XXVIth International Biometric Conference

Organised by the Biometric Society of Japan,Japanese Region of the International Biometric Society

Invited Programme

The call for proposals for Invited Sessions at IBC Kobe 2012 was issued at the IBC in Floripa in December 2010. By the deadline in September 2011, 35 proposals had been received by the Chair of the International Programme Committee, Christine McLaren. Following two rounds of assessment by the members of the International Programme Committee and a final list of 14 Invited Sessions has now been agreed (full details available on web-site):

Programme (Invited Programme)

- Novel statistical methodology and its application in marine ecology and fisheries research
- The landmark approach to event history analysis
- Statistical challenges in the analysis of rare genetic variants in association studies
- Advances in spatial latent variable modeling, with applications to bio-sciences
- New developments in statistical ecology
- Approximate Bayesian computation (ABC) and likelihood-free inference
- Design and analysis of clinical trials for predictive medicine: new paradigm and challenges
- HER databases and long term observational studies in the study of quality of care assessment and risk factors for outcomes-Bayesian and Frequentist methods and limitations on inference
- Data visualization: optimization and applications
- Novel mixture modelling and likelihood methods in modern biomedical applications
- Exposure reconstruction and exposure uncertainty in epidemiological studies of radiation health effects
- Statistical methods for reducing batch effects, summarization and gene filtering in high-throughput genomic data
- International collaborations and networking of the biometricians to develop statistical methodologies and to solve global statistical issues
- Statistical methods for analyzing neurophysiological signals

In addition to this invited scientific program, there will be a number of special sessions arranged by the society, including showcase sessions for each of our journals, Biometrics and JABES, the Young Statisticians Showcase and a Satellite Meeting organized by Japanese Region.

Pre-conference short courses

Information on short courses scheduled on August 26 will be announced shortly.

Registration

Registration for IBC Kobe 2012 will open in 4th January 2012, with a deadline for the reduced "Early Bird" registration fees of April 30th, 2012. The registration will be online via the conference web-site.
All quoted fees are in Yen, the Japanese currency. Payment is also required in Yen.

Registration Fees

	Before April 30th / After April 30th
IBS Member Registration Fee	¥50,000 / ¥70,000
SCC[1] Registration Fee	¥20,000 / ¥28,000
Student Registration Fee	¥20,000 / ¥28,000
SCC[1] Student RegistrationFee	¥15,000 / ¥21,000
Non-Member Registration Fee	¥70,000 / ¥100,000
SCC[1] Registration Fee	¥28,000 / ¥40,000
Student Registration Fee	¥20,000 / ¥28,000
SCC[1] Student Registration Fee	¥15,000 / ¥21,000
Accompanying Persons Programme	¥4,000 / ¥5,000

[1]SCC = Special Circumstance Country

Call for Papers

Abstracts for contributed oral and poster presentations to be presented at IBC Kobe 2012 can be submitted online from 15 October 2011 until 15 January 2012 inclusive.
The mission of the IBS is "to promote the development and application of statistical and mathematical theory and methods in the biosciences, including agriculture, biomedical science and public health, ecology, environmental sciences, forestry, and allied disciplines". Contributions at the conference are therefore welcome across a wide range of both methodological topics and application areas relevant to the mission of the IBS.
The following list provides an indication of the areas that have been covered at previous conferences and will be covered at the coming conference, but these should not limit what you submit.

- Agricultural research
- Ecological research (including forestry, fisheries and wild life)
- Genetic research (non human)
- Genetic research (human)
- Environmental research
- Infectious diseases and control
- Epidemiological research
- Epidemiological research for radiation exposure
- Measurement and analysis of radioactivity and radiation exposure
- Design and analysis of toxicology and pharmacology
- Design and analysis of clinical trials
- Pharmacokinetics and pharmacodynamics
- Pharmacoepidemiology and post-marketing research / outcome research
- Risk analysis and risk management
- Medical research (including diagnostics research and medical decision making)
- Analysis of imaging and signal data
- Microarrays and omics data
- Biological networks
- Causal inference in clinical and epidemiological research
- Validity and reliability of measurements
- Bayesian methods
- Survival data analysis
- Longitudinal data analysis / mixed effects model
- Missing and incomplete data
- Categorical data analysis
- Spatial data analysis
- Multiple testing and adjustments for multiplicity
- Computer intensive methods and software development
- Statistical graphics

Local Organizing Committee

Toshiro Tango (Chair)
Chikuma Hamada
Yukio Hatoyama
Manabu Iwasaki
Hirohisa Kishino
Thomas Louis
Yutaka Matsuyama
Mihoko Minami
Tetsuhisa Miwa
Toshihiko Morikawa
Yasuo Ohashi
Takashi Omori
Tosiya Sato
Hiroe Tsubaki
Hiroyuki Uesaka
Kazue Yamaoka
Hao Yan

For constantly updated information, please see the website
http://www.secretariat.ne.jp/ibc2012/